

3.2.4.2 研究活動

【評価項目 9-2-1】 研究活動

- (必須要素) 論文等研究成果の発表状況
- (選択要素) 国内外の学会での活動状況
- (選択要素) 当該大学院・研究科として特筆すべき研究分野での研究活動状況
- (選択要素) 研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

【評価項目 9-2-2】 研究における国際連携

- (選択要素) 国際的な共同研究への参加状況
- (選択要素) 海外研究拠点の配置状況

<2003年度に設定した目標>

1. 論文等研究成果の国際的公表の増加。
2. 研究助成ことに科学研究費、COEプログラムなどによる社会学研究科として、国内外での共同研究を展開する。
3. 国内外での共同研究を基盤にした海外拠点の形成。

(現状の説明)

論文等研究成果、学会での発表は比較的多数にのぼるものの、個々の報告書、著書、個別の学会などでの発表が大半である。また国際的学会などでの発表が比較的少数に留まっている。

研究業績をホームページに記入しない教員もあり、正確には把握できないが、研究業績データベースに基づく社会学部における2000年度から2004年度までの論文等研究成果の発表状況は次のとおりである。

年度	著書	論文	ジャーナル論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願
2000	32	59	5	44	0	6	15	4	13	0	1	24	1	0	0
2001	37	47	10	29	0	5	7	3	1	1	0	14	4	0	0
2002	31	50	7	27	0	2	10	9	2	2	0	9	1	0	0
2003	32	59	11	24	0	3	8	7	6	0	8	5	0	0	0
2004	27	40	3	31	0	3	2	6	1	0	1	1	1	0	0
計	159	255	36	155	0	19	42	29	23	3	10	53	7	0	0

研究助成による研究プログラムなども個別には比較的活発に行われているものの、それが研究科の特徴を十分に創造するものになりきれていない。

国外研究者、研究機関との共同研究はごく少数に留まっている。

(点検・評価の結果)

全体として学会発表数、論文数は増加している。しかし、報告書類が多く、査読つき雑誌への掲載が少ない傾向が続いており、国内外への発信という点ではいまだ不十分である。

2003年度より「『人類の幸福に資する社会調査』の研究」をタイトルとするCOEプログラムが採択され、2004年度末より研究成果が急速に集積されはじめている。また同時に2005年度の科学研究費補助金の採択数も増加し、2005年度に入って全体として研究論文の数も増加している。また国内外での共同研究も増加している。とはいえそれら社会学研

究科の特徴ある研究に十分にはなり得ていない。また国外研究者、研究機関との連携も量的には増加しているものの、やや焦点が拡散的である。

(改善の具体的方策)

国内外の雑誌への投稿を促すために、研究科として、社会学研究科独自の継続的研究プログラムに向けた共同研究の焦点化を目指す必要がある。そのためには、内外の研究拠点間のネットワークを強化し研究者の交流拠点になるような継続的な共同研究の組織とそのための施設を充実させることが必要である。具体的には、すでに計画されている先端社会研究所計画の推進は必須となる。COEプログラムの必須条件ともなっているCOE修了後のプログラムの継続（ポストCOE）を活かすための方針の検討を行う。